

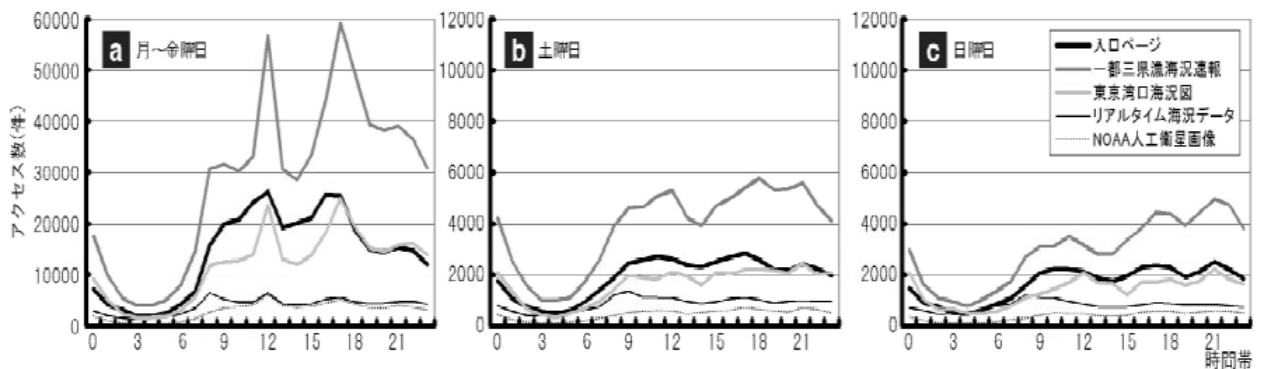
いつも海況情報をご利用くださりありがとうございます。

当センターのウェブサイトは、平成9年8月1日に登場しました。これは、県の農林水産系研究機関の研究支援と県民への情報提供を目的とした農林水産情報システムで公開していました。当時は更新頻度が低く、「一都三県漁海況速報」と「東京湾口海況図」の1週間に1回が最も高頻度な更新で(1週間分の図をまとめて公開)、他はいくつかの漁況月報で1ヶ月に1回の更新でした。

平成11年に、広報媒体としての積極活用が企画され、各部の紹介の充実、イベントやトピック情報の提供を開始しました。この時から私はウェブサイトの運営に携わりましたが、状況に応じて即時に情報を送り出せる等の従来の媒体にできない利点を発揮して「当センター(当時は水産総合研究所)と神奈川の水産をみんなにアピールするんだ!」と当時のメンバーで気焰を上げたことが思い出されます。

平成12年に海況図を毎日更新するとともに(土日祝祭日を除く)、「海況図データベース」として検索機能を作りこんで海のプロ(漁業者)やハイアマチュア(釣り人)に高度に活用してもらえるようにしました。このあたりから、私はウェブサイトの企画からは離れ、海況の研究担当として、この分野の情報提供の充実に携わるようになりました。平成13年には、海の波や天候をチェックするためのライブカメラ、当センター地先の水温・塩分等の連続観測、城ヶ島沖浮魚礁の流向・流速等のリアルタイム提供を開始しました。平成16年には、海況図を携帯電話で見られるようにしました。今では、携帯電話で自在にパソコン向けのウェブサイトも閲覧できますが、当時の第二代携帯電話では、閲覧可能な図の容量に著しい制限があり、苦慮したのが思い出されます(メルマガno239「ケータイ海況図ものがたり」<http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f450011/p582693.html>)。

この経過は、論文にまとめました(「インターネット(ホームページ)で公開した水産情報の利用状況」<http://www.pref.kanagawa.jp/uploaded/attachment/533829.pdf>)。利用状況を調べた結果、海況図が平日の12時代と17時に利用の大きなピークがある、一週間のうちでは金曜夜に利用が多い、東京湾口海況図は冬の夜中の利用が目立つ等興味深い結果が得られました。



さて、その農林水産系のウェブサイトは20年の歴史を経て、平成29年7月31日をもって終了となり、ほとんどのウェブコンテンツは、このコラムを掲載している県庁系のウェブサイト <http://www.pref.kanagawa.jp/div/1730/> に移行しました。しかし、上述の当センターで開発した「海況図データベース」は、そこに移行できません。これは、新たなウェブサービス <http://sui-kanagawa.jp/Kaikyozu/KantoTokai/> に移行しています(複雑な機能は段階的に公開します)。また、三崎瀬戸の連続観測も同様に、新たなウェブサービスで平成29年9月1日から公開を再開します。移行期間中はご不便をおかけしますが、これからもたくさんのご利用をお待ちしております。

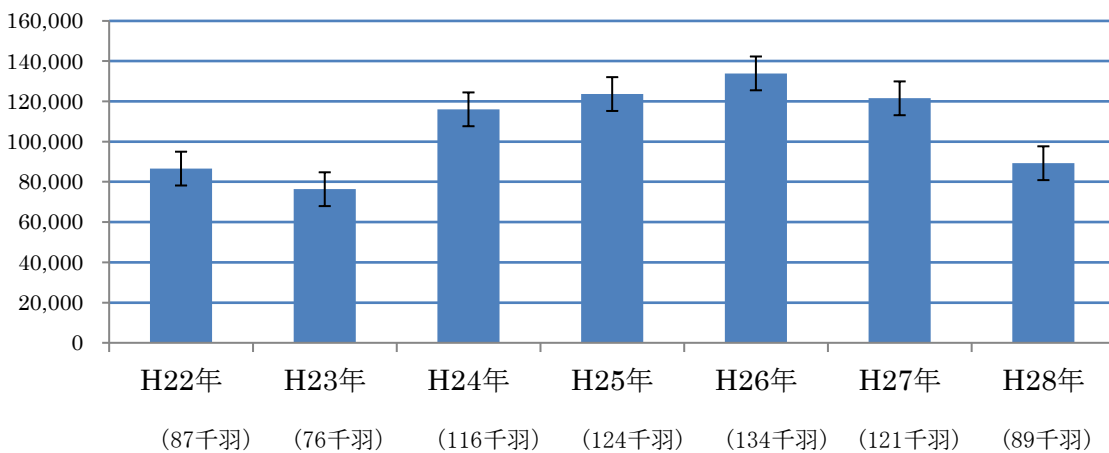


カワウの被害対策

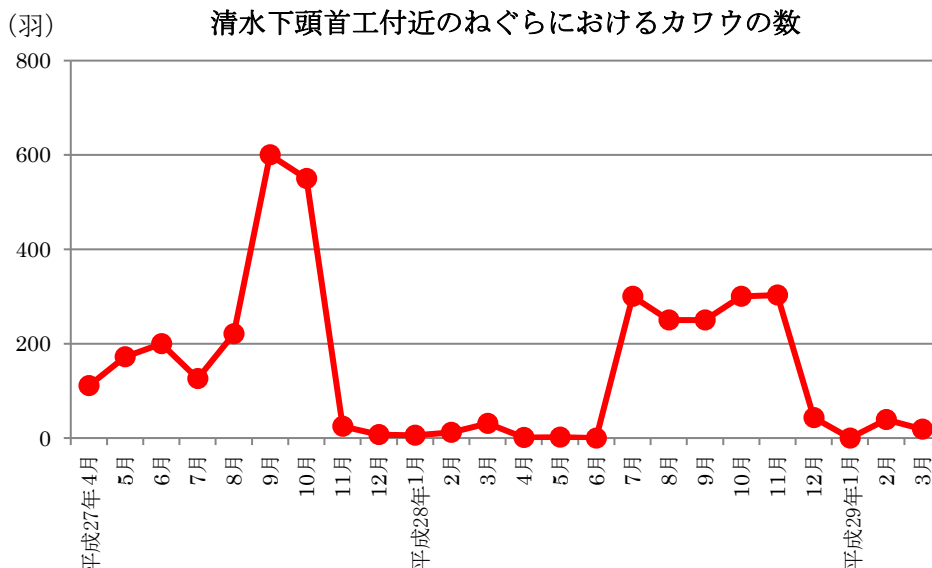
内水面試験場 戸井田 伸一

カワウ *Phalacrocorax carbo* は魚を食べる大型の鳥で、内湾や河川、湖沼などで生活しています。カワウは1日に2kgも魚を食べる大食漢のため、各地で被害が広がっています。神奈川県でも河川規模の大きい相模川と酒匂川では食害被害が大きく、河川規模の小さい早川と千歳川では被害が比較的少ない傾向にあります。また相模川の中流付近ではカワウが日常の住処とするねぐらが形成され、カワウが出す大量の排泄物により樹木等が枯れてしまう状況にあります。

相模川におけるカワウの飛来状況



相模川におけるねぐらの一つである清水下の頭首工付近では平成27年9月～10月に個体数が急激に増加したことから、漁業者によるねぐらとなっている樹木の伐採が行われました。樹木の伐採効果は大きく、平成27年11月から8ヶ月間、カワウの飛来は極わずかで、追い払い効果が持続しました。その後、一時的にカワウが戻り伐採場所の隣にねぐらが形成されましたが、以前の場所とは違い5ヶ月後には飛び去りました。



清水下頭首工付近のカワウのねぐら



カワウの追い払いには幾つかの方法があり、その代表的な方法としてロケット花火を使った威嚇があります。平成27年6月に行った試験では、一回当たりの発射数を変えてカワウの行動を観察しました。すると、数発では反応を見せないものの、10発以上発射すると飛び立って様子を見る行動を取り、15発以上では飛び去りました。

案山子もまた良く使われる方法ですが、魚道の周辺などカワウが集まる場所等での追い払い効果は高いものがあるものの、案山子を広範囲に設置することは、維持管理等の面で難しく、十分に対応できていません。

今までいろいろな対策（テグス張り、案山子、銃器による駆除、ロケット花火）等を行っており、それなりの効果は出ています。しかし、対策を行った場所での効果はあっても、他の場所で魚が食害されるなど、漁業者が対策を行う意欲が削がれているのも実情です。

今後は、ドローンの活用など新しい技術の導入も考え、被害の軽減に取り組んで行く予定です。